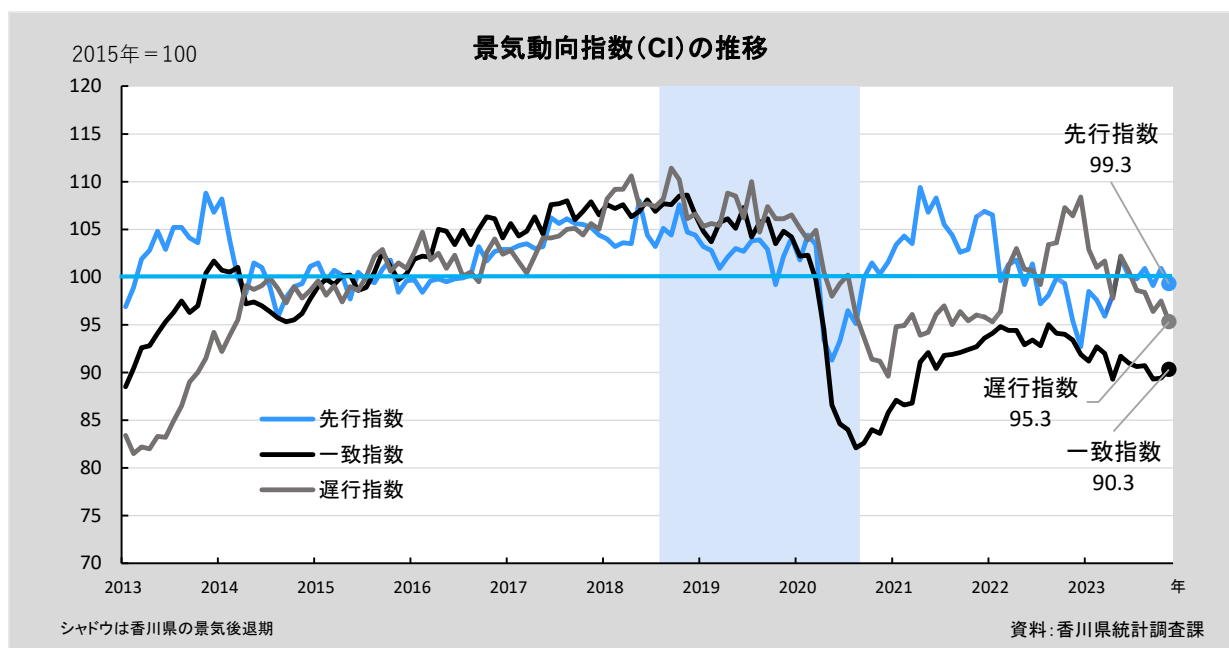


概況	景気は、持ち直している。
個人消費	持ち直しの動きが続いている。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	持ち直しの動きに足踏みがみられる。
生産活動	横ばい圏内の動きとなっている。
雇用情勢	持ち直しの動きに弱さがみられる。
貿易	輸出は増加、輸入は減少している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 2カ月連続上昇



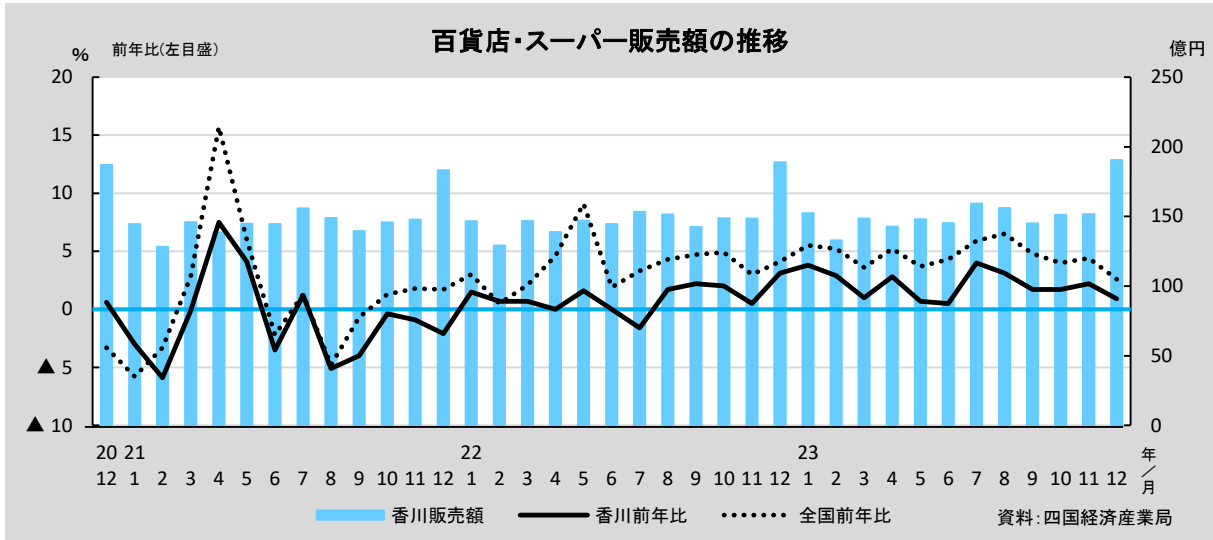
景気の現状をみると、11月のCI一致指数は90.3（前月比+0.9ポイント）と2カ月連続で上昇。CI先行指数は99.3（同▲1.6ポイント）と2カ月ぶりに下降。CI遅行指数は95.3（同▲2.2ポイント）と2カ月ぶりに下降。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、雇用保険受給者実人員、鉱工業生産指数等が上昇に寄与したことにより、前月から0.9ポイントの上昇となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	0.06	1 雇用保険受給者実人員	1.03	1 常用雇用指数	▲ 0.11
	2 乗用車新車登録台数	▲ 0.74	2 有効求人倍率	▲ 0.15	2 有効求職者数	▲ 0.33
	3 鉱工業在庫率指数	1.36	3 所定外労働時間指数	▲ 0.14	3 消費者物価指数	▲ 1.00
	4 生産財生産指数	0.10	4 鉱工業生産指数	0.35	4 家計消費支出	▲ 0.59
	5 新設住宅着工戸数	▲ 1.53	5 鉱工業出荷指数	0.25	5 鉱工業在庫指数	0.39
	6 金融機関貸出残高	▲ 0.45	6 建築着工床面積	▲ 0.53	6 法人事業税調定額	▲ 0.23
	7 消費者態度指数	▲ 0.11	7 百貨店・スーパー既存店販売額	0.09	7 第3次産業活動指数	▲ 0.12

●百貨店・スーパー販売額

17 カ月連続増加 ↑

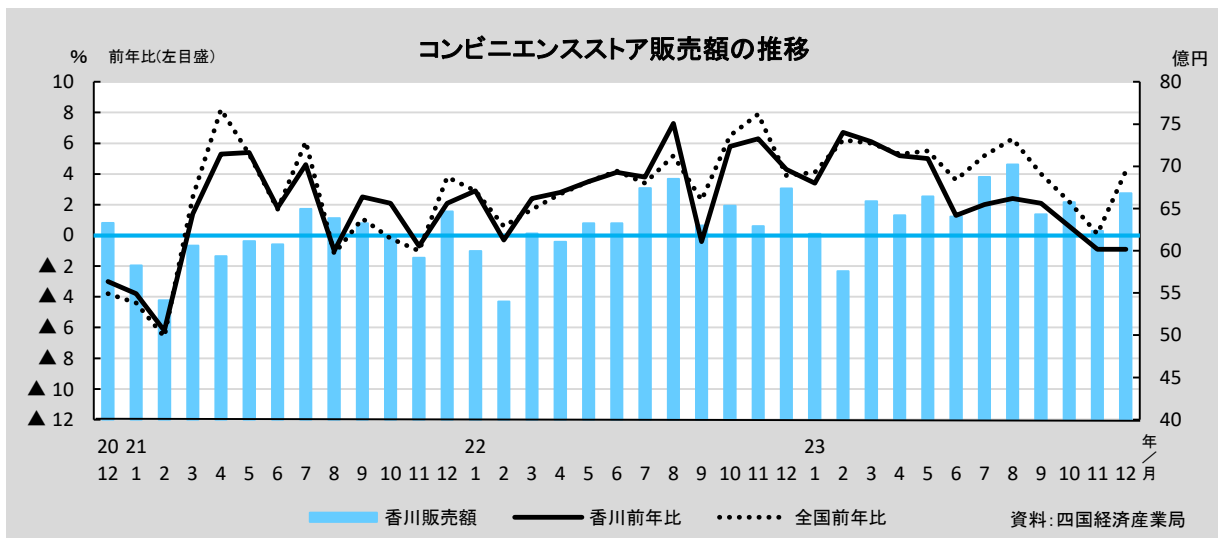


2023/12月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	133,658	82,243	1,387,828	2,765	6,100	79,777	212,598	669	1,905,638
前年同月比(%)	▲ 5.0	2.4	3.1	1.7	▲ 5.9	▲ 4.8	▲ 7.1	24.6	0.9

12月の百貨店・スーパー全店(85店)の販売額は190.6億円で、前年同月比+0.9%と17カ月連続で増加した。「飲食料品」は帰省等の年末需要からオードブル等総菜などに動きがみられ同+3.1%と好調だった。「衣料品」は暖冬の影響により冬物衣料が振るわず同▲5.0%となった。

●コンビニエンスストア販売額

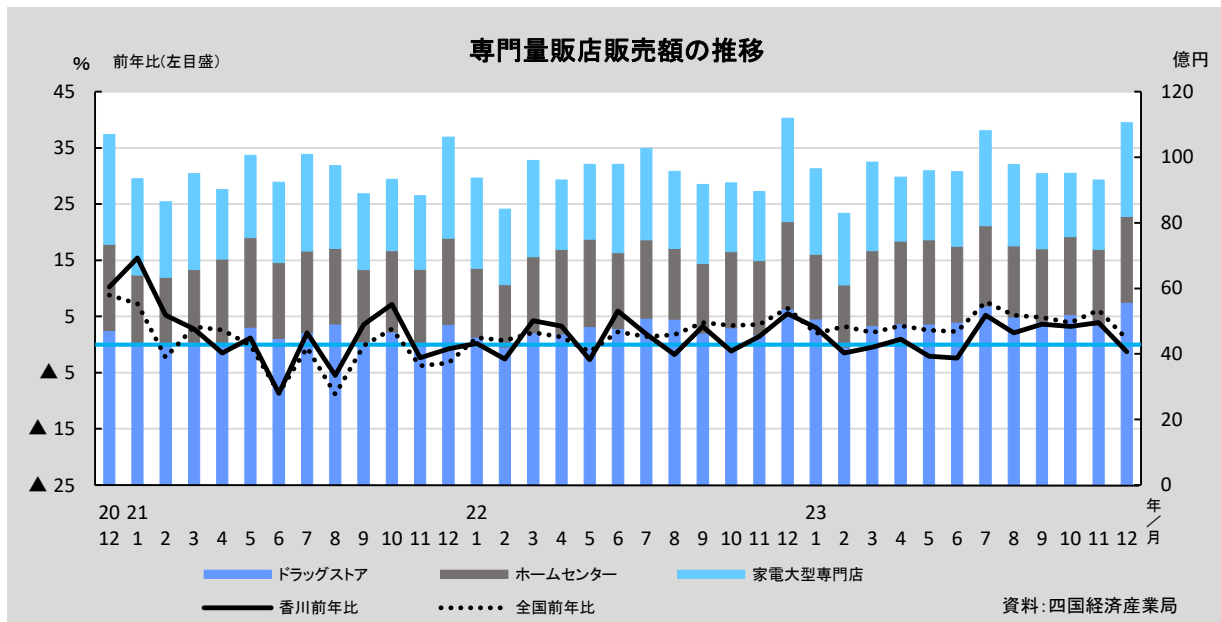
2 カ月連続減少 ↓



12月のコンビニエンスストア全店(400店)の販売額は66.8億円で、前年同月比▲0.9%となった。客数が伸びず、客単価も減少傾向で2カ月連続の減少となった。

●専門量販店販売額

6カ月ぶり減少

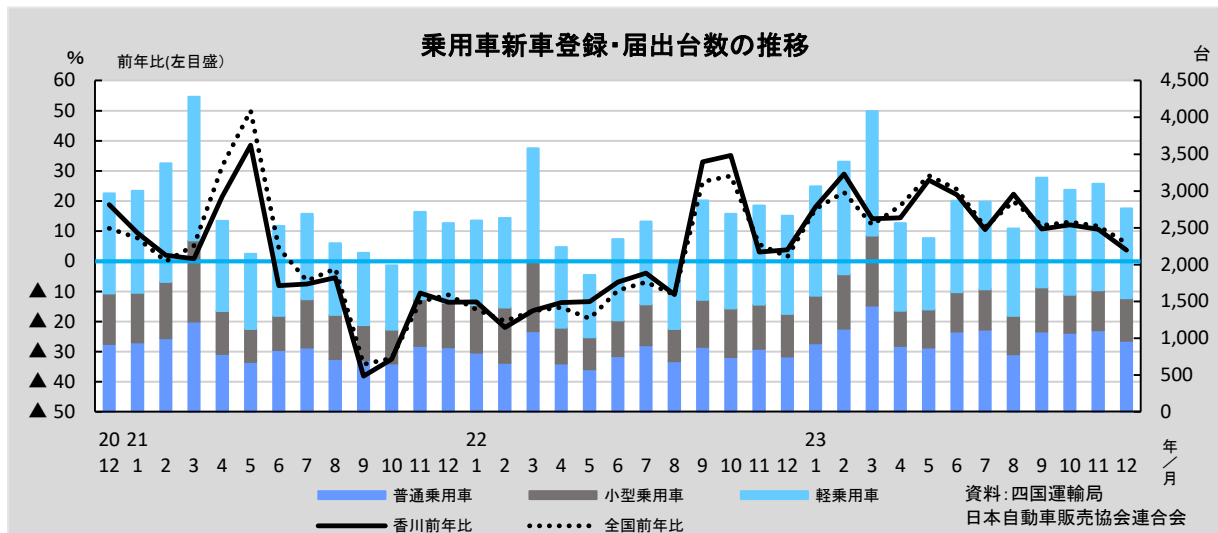


12月の専門量販店全店（217店）の販売額110.6億円で、前年同月比▲1.3%と6カ月ぶりに減少した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（28店）の販売額は、暖冬で暖房器具などの季節商品の動きが鈍く、28.6億円で前年同月比▲9.5%となった。**ドラッグストア**（142店）の販売額は、冷凍食品や化粧品などの動きが良く、55.7億円で同+3.8%となった。**ホームセンター**（47店）の販売額も暖房器具が伸び悩み、26.2億円で同▲1.8%となった。

●乗用車新車販売台数

16カ月連続増加



12月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,762台で、半導体不足や部品調達難だった前年の反動増で前年同月比+3.8%と16カ月連続で増加した。

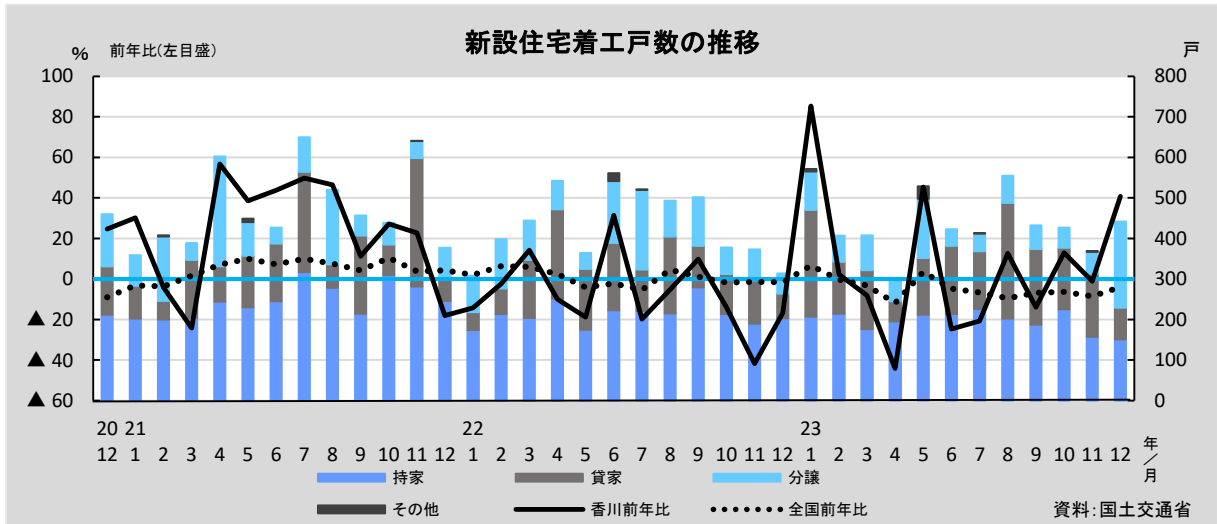
車種別にみると、普通乗用車は前年同月比+28.2%、小型乗用車は同+0.5%、軽乗用車はダイハツの認証不正問題に伴う出荷停止が響き、同▲8.6%となった。

住宅投資

低調に推移している

●新設住宅着工

2カ月ぶり増加 ↑



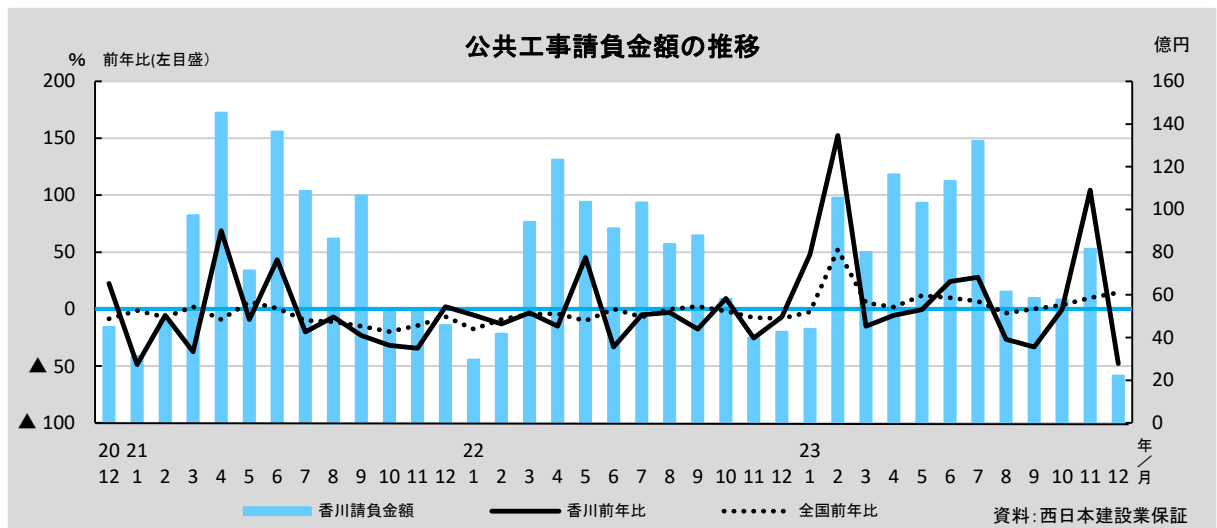
12月の新設住宅着工戸数は442戸で、前年同月比+40.8%と2カ月ぶりに増加しました。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲25.6%、**貸家**で同+27.9%、**分譲住宅**で同+326.0%となった。

公共投資

持ち直しの動きに足踏みがみられる

●公共工事請負金額

2カ月ぶり減少 ↓



12月の公共工事請負金額は22.2億円で、前年同月比▲48.0%と2カ月ぶりに減少しました。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+4475.0%、**県**で同▲8.1%、**市町**で同▲63.6%となった。

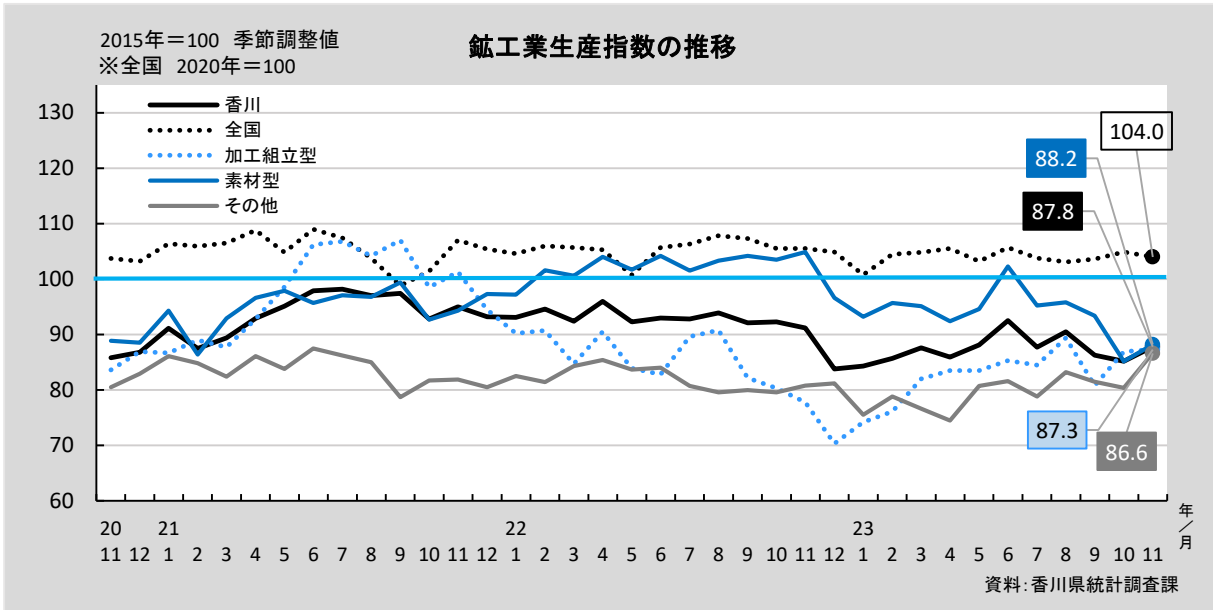
2023.4月～12月の累計では前年同期比1.8%増加している。

生産活動

横ばい圏内の動きとなっている

● 鉱工業生産指数

3 カ月ぶり上昇 ↑



11月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は87.8（前月85.2）となり、3カ月ぶりに上昇した。

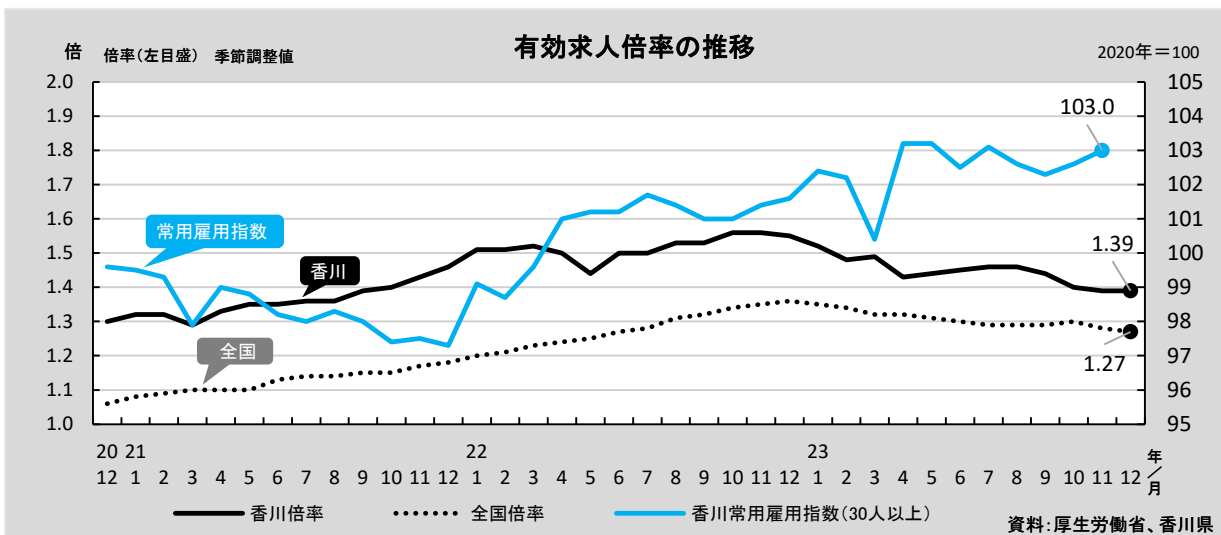
業種別では素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比+11.1%、加工組立型の電気機械工業（発光ダイオードなど）は同+7.5%と上昇した。一方、加工組立型の輸送機械工業（鋼船など）は同▲8.2%と低下した。

雇用情勢

持ち直しの動きに弱さがみられる

● 有効求人倍率

前月と同水準 →



12月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.39倍（全国13位）となり前月と同水準となった。

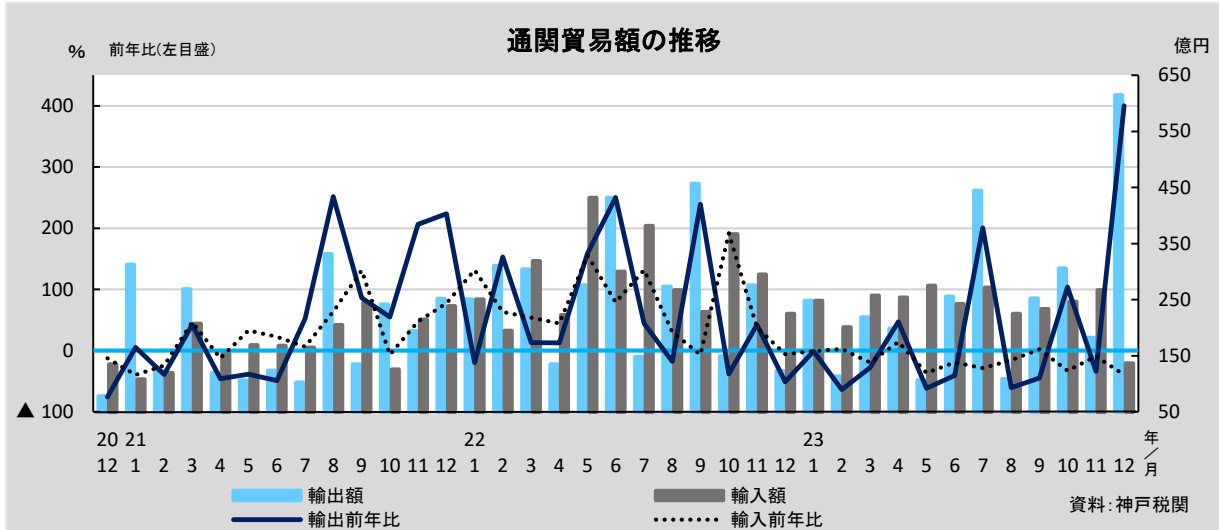
新規求人（原数値：前年同月比）は、公務・その他、サービス業（他に分類されないもの）、製造業、卸売業・小売業等で減少し、全体で▲8.8%と7カ月連続で減少した。

11月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、103.0となり、前年同月比は21カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業従事者	2.25
事務従事者	0.64
販売従事者	2.63
サービス職業従事者	3.46
生産工程従事者	2.31
輸送・機械運転従事者	2.45
建設・採掘従事者	6.64
運搬・清掃・包装等従事者	1.20

貿易

輸出は増加、輸入は減少している



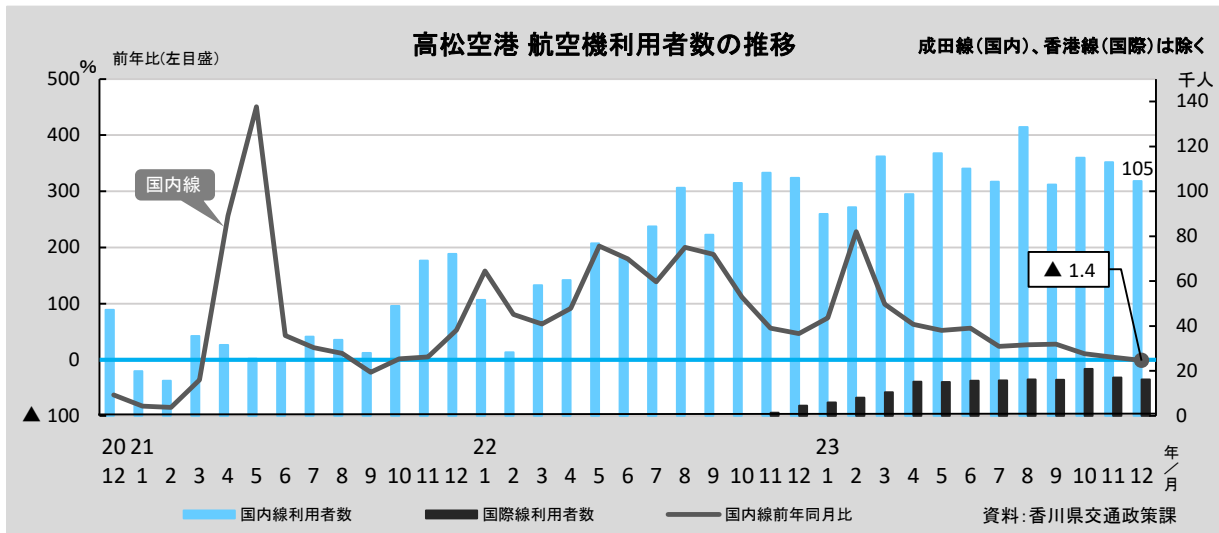
12月の輸出額は前年同月比+400.1%の614.6億円、輸入額は同▲39.3%の136.5億円となり、差し引き478.1億円の出超となっている。

輸出は、前年同月ゼロだった貨物船輸出額が378億円となった。輸入は、石炭輸入額が同▲61.6%の43億円となった。

交通

国内線は27カ月ぶり減少、国際線は好調

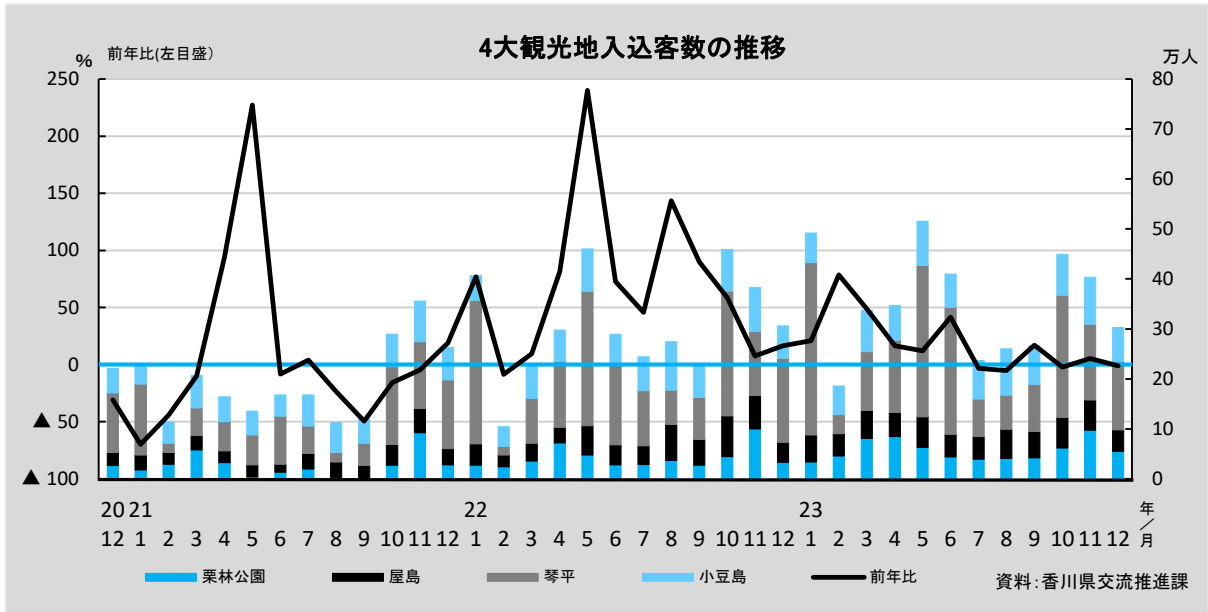
●高松空港旅客輸送実績



12月の航空機利用者数は、国内線（羽田・那覇線）が104,543人（前年同月比▲1.4%）となり、27カ月ぶりに減少した。羽田線は96,357人（同▲2.5%）、那覇線は8,186人（同+14.7%）となった。

国際線は、ソウル線11,196人、台北線4,973人で合計16,169人（前年同月比+253.9%）と増加し、コロナ禍前の2019年同月比では+1.7%と初めてプラスに転じた。

●主要観光地入込客数

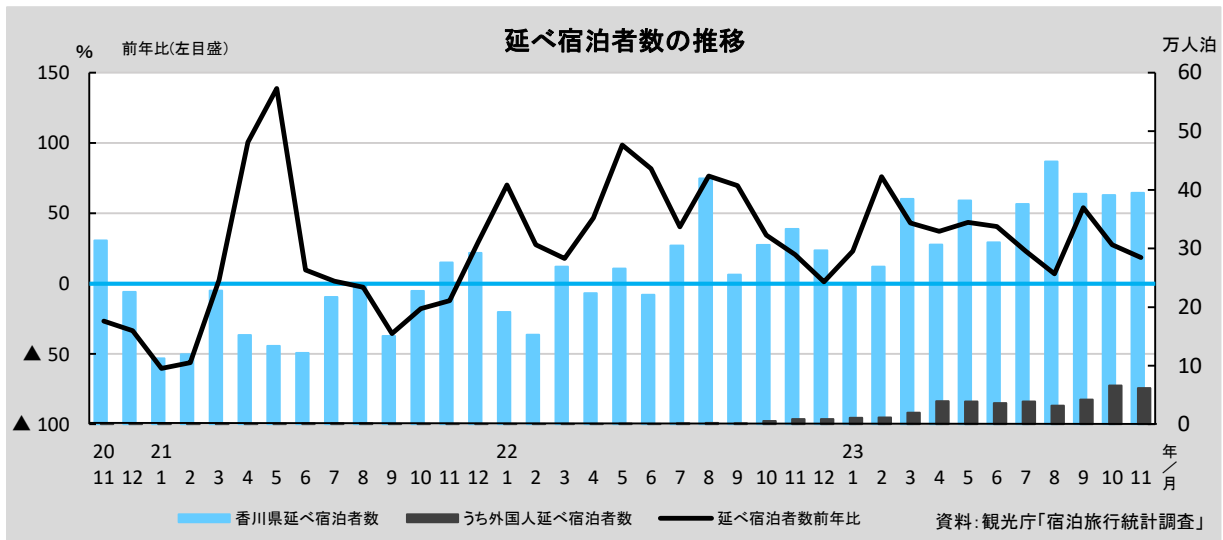


観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
12月(人)	前年同月比	54,481	65.7%	43,253	7.8%	137,000	▲18.5%	68,058	4.7%	302,792	▲1.0%
1~12月累計(人)		686,414	36.2%	630,715	8.5%	1,972,000	11.7%	916,150	10.7%	4,205,279	14.3%

12月の主要観光地の入込客数は、前年同月比▲1.0%と2カ月ぶりに減少した。栗林公園は前年同月比+65.7%、屋島は同+7.8%、小豆島は同+4.7%と増加したが、琴平は同▲18.5%と減少した。

1~12月の累計では前年比+14.3%となった。

●延べ宿泊者数



11月の延べ宿泊者数は394,940人で、前年同月比+18.5%と24カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲7.6%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数61,860人となり、前年同月比+588.1%と16カ月連続で増加した。2019年同月比では▲11.2%となった。